

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	20	学校名	静岡県立沼津城北高等学校	校長名	高石 達寿
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	職業観と 進路意識 の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業を見通した文理選択 ・2年次10月までの進路希望学校名決定50%以上、大学・短大希望者は学部学科決定70%以上 ・進路研究を生かした各自の目的意識に合った進路決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目選択説明会と面接を適切な時期に設定し、文理選択をさせることができた。 ・進学希望者で具体的な学校が決定している2年生は、10月で53%であった。 ・担任との面談を通して、将来を見据えた文理選択をすることができた。 ・校名決定53%、学部学科決定74%で、あった。 ・1、2年次からの進路希望を学年共有し、定期的な面談を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文転が多いのは看護系志望が多いことによるので、引き続き適切に指導したい。 ・2年生の終わりには進路希望を確固としたものにするための指導が必要である。 ・面談において外部調査の結果を活用することができた。 ・早い段階で進路希望が決定することは、準備に直結するので割合を増やしたい。 ・志望校に大半の生徒が合格することができた。
ア 進路希望の実現	総合的受験力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試の成績向上（中間層の向上） ・小論文、面接の対応能力向上 ・志望理由書作成能力の向上 ・進学講習参加者増加と満足度向上 ・進路希望実現者の増加（3年1学期までの進路目標定着80%以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を着実につけた生徒がいる一方で、集団としての成績向上には課題が残る。 ・グーグルクラスルームを利用した模試対策を行い、土曜講習・共通テスト対策補講に取り組み、得点を向上させることにより自信をつけることができるように指導した。 ・苦手分野を洗い出し、基本事項の演習を積み、応用問題に対応できる基盤を固めた。 ・英検取得者が増加した。英語を用いた入試への対応を行った。 ・面接の基礎となる挨拶等の仕方や受験を乗り切る体力の向上に寄与した。 ・プレゼンテーションの演習を行い、面接における対応能力を養った。 ・3年1学期までの進路目標定着80%以上となり、円滑な進路指導に繋がった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・面接ノートなどを用いて、小論文や面接指導をより体系的に行う必要がある。 ・上位層の力を伸ばし、自信をつける取り組みを考える必要がある。 ・グーグルクラスルーム、土曜講習・休業中補講に取り組んだ。 ・全体としての学力向上にはまだまだ課題が残るので、今後も指導方法を模索していきたい。 ・既習内容をいかにして定着し続けられるかが課題である。 ・英検を取得した人数が増加した。2級以上合格者を増やしたい。 ・受験を乗り切る体力向上に貢献できた。 ・プレゼンテーションを行うことは貴重な経験になるので今後も続けていきたい。 ・外部模試前後の対策を各教科ですることにより、生徒の模試への対応を変化させる。

	<p>変化する入試制度への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに対応した継続的な進路指導の展開 ・英語4技能7段階のグレードCAN-DO statements の確認と具体的な目標設定 ・GTEC (A2以上) 実用英語検定 (準2級以上) 合格の増加と下位層の学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は6回のマーク模試と3回の記述模試により、受験対策ができた。 ・GTECのA2レベル以上の生徒、および英検の取得者が増加した。 ・生徒が新テストに興味を示すよう、共通テスト予想問題集を学級文庫に置いた。 ・共通テスト実施後、国語・数学・英語の問題を解かせ、来年への準備とした。 ・昨年度からの対策により、共通テストに対する抵抗感が無くなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上と受験の意識を高めるために模試受験への徹底した指導が必要である。 ・問題集に興味を示し、見ている生徒がいた。新テストを意識させることができた。 ・学年だけでなく、教科等と連携して早期の動機付けとする必要がある。 ・根本的な基礎学力の定着が必要不可欠である。
	<p>新学習指導要領への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の研修への教員の積極的な参加 ・令和4年度入学生のカリキュラム作成 ・教科別研修会の実施 ・新学習指導要領の理解の促進 ・教科単位で観点別評価の基準表を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領での評価方法について、十分検討をし、運用方法を決定した。 ・各教科で観点別評価を行った。研修会でALについて学んだ。 ・関係各所で十分検討し、本校の目標と生徒の実態に即した教育課程表が完成した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな評価方法のため、早い段階で再検討し、適切なものにしていきたい。 ・ALの理解を深められた。手法の研修が必要。 ・各大学の「共通テストの利用方法」の詳細が出次第、適切に対応していきたい。
イ	<p>確かな学力の定着</p> <p>基礎学力の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間と学習理解度の増加 ・大学入学共通テストの成績向上 ・「学びの基礎診断」のPDCAサイクルに基づいた活用促進と指導への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間が、昨年度より平均で平日4分、休日6分それぞれ増加した。 ・週末課題の提出や小論文課題の提出を徹底した。 ・定期試験復習、休業中課題等効果的な指導に当たった。 ・理科の家庭学習の時間を増やすことは定期テスト前を除いては難しかった。 ・小テストを用いることで宿題の時間を確保した。 ・保健等で目標達成に向けたPDCAサイクルの活用について解説した。 ・毎回の授業で生徒に振り返りをさせて学習理解度の定着を図った。 ・自習ノートと学習記録に取り組んだ。担任指導から学習習慣の改善が見られた。 ・定期テスト前の学習計画を立てることにより家庭学習に意欲的に取り組めた。 ・3年間続けた学習記録を活 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間がさらに増えるよう、引き続き様々な工夫を実施していきたい。 ・提出した課題を学力向上とつなげる工夫が必要である。 ・R80を実施し、論述問題に対応した指導で効果を上げている。 ・授業の中での理解に関しては一定の成果が見られた。 ・小テスト・週テストを行い、理科の家庭学習の増加を促していきたい。 ・一定の学習は見られたが、小テスト以外の学習時間を増やす必要がある。 ・基礎学力に繋がる学習の方法について考えさせる機会を持たせることができた。 ・学習内容は定着している。今後は共通テストに向けて学習内容の見直しをしていく。 ・取り組みが十分でない生徒への指導方法を研究する。 ・テスト前だけでなく、平常時も自分で計画して取り組める方

			用し、基礎学力の定着に向けた環境づくりができた。		法を提示する。 ・基礎学力の定着に向けた日常の授業と家庭学習のバランスに課題が残る。ところもあった。
	読解力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での読解力を意識した授業展開 聞く・書く・話す等まとめる力の向上 朝読書の充実と読書量の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎に、年間4週間の朝読書を実施した。 文章を理解するための語彙力を身につけさせる指導を中心に行った。 教科書の音読輪読を実施し、学習内容の理解と理論的考察力を高めるように努めた。 聞く・書く・話す等の活動の中で一定の成果は感じられる。 日常生活と関連付けた発問によって、読解力の向上をはかった。 精読だけでなく、英語の4技能の向上に努めた。 「保健」では、授業単位においてR80等を用いて考えをまとめる機会をつくった。 授業時のワークシートを活用して文章をまとめる力を向上させることができた。 SHR前に新聞記事を読み、内容を理解しまとめる問題に取り組んだ。 年間4回の朝読書を実施、実施期間は真剣に取り組み、読書量が増加した。 進路課と担任が連携した指導を実践した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読書の習慣ができた生徒も増加した。今後は1回の時間の延長を考えたい。 効率的に定着させるための工夫が必要である。 教科書の音読輪読を実施し、学習内容の理解を高めた。量的な取り組みが必要である。学期ごとの読書レポートなど効果的な指導が必要である。 問いに答えることはできるが、その本質的な意味を理解し、応用させる段階にはまだ至っていない。 理科に関連する新聞記事などを取り上げて、考察していく授業も必要である。 精読や書く活動はよくできた。発話を増やしたい。 文章作成能力が向上し、要点をまとめる力がついた。 新聞記事を分析し、グループでプレゼンテーションを行うことができた。 前向きに取り組む生徒の様子が見られた。効果の検証方法について検討が必要である。 読書時間は増えたが、図書室利用などに反映させることができなかった。 受験校に合わせた課題等を実践することができ、読解力の向上に繋がった。
人間力の育成	生徒会活動や学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事の運営に主体的に携わる生徒30%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動が活発に行われた。(30%超)生徒が積極的に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は更なる自発的活動に期待したい。
	部活動と学習活動の両立	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画作成と周知、活動目標の達成 満足度75%以上と県大会出場者50人 各学期の欠点保有者が3%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動では、総体59人、新人戦35人が県大会出場を果たした。 満足度は80%と良好な結果となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> レベルの高い目標を各部が定め、大会での好成績を収めて欲しい。

	<p>規則正しい生活習慣とマナーの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒らしい身なりや行動の実践 ・全校生徒の自発的挨拶と対応力向上 ・服装頭髪検査時の違反0人を2/3以上 ・進路実現に向けたマナー等の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒は挨拶ができ、服装頭髪の乱れもなく学校全体に落ち着きがみられた。 ・服装頭髪は概ね良好であった。自発的な挨拶をする生徒もいた。 ・頭服検査では毎回、違反者0で、日常でも注意を受ける者はいなかった。 ・始業5分前から自主学習を行い、規則正しい生活リズムがつくられた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶だけではなく、規範意識とマナーの向上を目指す。 ・自発的な挨拶をする生徒を多くしたい。 ・頭服に関しては、日常的に注意を繰り返し行ったことが結果として表れた。 ・コロナ禍における精神面を含む体調管理に課題が残る。
	<p>人権意識の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権意識や人権感覚の涵養 ・配慮が必要な生徒への適切な対応 ・生徒間の対人トラブルへの適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講話を開催し、人との関りについて考えさせる機会を設けた。 ・スクールカウンセラーとの連携により適切な対応がとれた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連携をより密に行い、生徒一人一人に適切な対応を実施していきたい。
エ 安全・安心な学習環境	<p>防災体制と防災教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練の参加者70%以上、不参加者の追指導と合わせて100%の参加 ・安否確認訓練において1回で応答する生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練はコロナの影響により実施自治体数自体が少なく、19%の生徒参加となった。 ・安否確認訓練の目標は達成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの流行状況等を見極めつつ、参加の呼びかけを行っていく必要がある。
	<p>自転車事故の防止とSNSの不適切利用の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故発生件数10件以内 ・SNSの不適切利用者指導が10人以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故発生件数は6件であった。県教委によるネットパトロール摘発件数0件。SNSによる生徒指導事案1件であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールとマナーの徹底を継続的に行う。違反者に対する個別指導の実施。事故事案の情報提供を行う。
	<p>治癒率の向上と感染症の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断での心電図、貧血、尿検査の有所見者は100%受診(検査、治療) ・歯科・視力の受診率60%以上 ・生徒、保護者の健康に関する意識向上 ・マスク着用や手指消毒等の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・心電図・貧血は100%だが、全体では目標に届かなかった。 ・健康観察記録表を毎日提出させ、健康観察を行い、意識の向上に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・治療率向上に向けて継続指導したい。 ・今後もコロナ対策に万全を期し、感染予防対策を徹底していく。

	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒の性格診断検査実施と結果の有効活用 ・困り感のある生徒や問題を抱えた生徒への支援体制の確立と連携の充実 ・気軽に相談できる環境の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒に性格診断検査を実施し、その結果を担当にフィードバックした。 ・毎月、相談室だよりを発行し、相談環境の向上に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに対応できるケースでは、比較的指導もできたが、不登校になってからの指導は非常に難しい。 ・継続的な関りにより、無事卒業を迎えることができた生徒がいた。
オ	地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動等への積極的参加による地域貢献 ・ボランティア活動や地域行事への参加による生徒の社会性や参画意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津クリーン週間や千本浜清掃活動に参加した。 ・部活動単位でのクリーン作戦参加、市内海岸清掃、サマーボランティア活動へ多くの生徒が参加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津クリーン作戦では、158名が参加。千本浜清掃活動には10名が自主参加してくれた。 ・自発的な参加により、ボランティア精神を継続的に養う。
	広報活動による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容の充実と更新回数増加（閲覧状況の調査） ・学校説明会、一日体験入学参加者の理解度や満足度の向上 ・近隣中学校への積極的訪問と情報発信 ・志願者数の安定確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール参加者アンケートで、参考になったと答える中学生が90%を超えた。 ・6月上旬から中旬にかけて近隣中学校を訪問し、中学校教員に向けた本校説明を、延べ36校にて実施した。 ・中学校側から招待され、中学生対象の学校説明会に、延べ16回参加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも情報発信に努め、志願者数の安定的確保につなげたい。 ・オープンスクール当日の日程に関して、より充実したものになるように改善していきたい。
	新構想高校開校への準備	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン・ハイスクール事業の推進による魅力ある学科設置等の研究 ・総合的な探究の時間の見直し ・令和4年度入学生の探究活動の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合探究の先進校の視察や総合探究講演会を企画、開催した。 ・在校生の探究活動を見直し、令和4年度入学生の探究活動の年間計画を作成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学科設置に向けて、沼津西高校との連携を深めていく。 ・令和4年度入学生における3年間を見越した探究活動の指導計画を作成する必要がある。
カ	頼もしい教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の校内研修の充実と授業改善 ・校内における教職員同士の学び合いによる研修の充実と同僚性の向上 ・AL型授業の深化と観点別評 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の校内研修を行い、AL型授業・観点別評価の理解を深めることができた。 ・観点別評価に関する研修を行い、年度末のまとめの評価方法について決定した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の深化、ルーブリックの精度を高める作業が必要となる ・次年度は運用初年度のため、早い段階から関係各所で検証し、改善していきたい。 ・観点別評価の情報が少なく、まだ改善の余地がある。

	価の推進			
ワーク・ライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による業務効率化実施 100% ・時間外業務時間の対前年比 5%減少 ・全部活動の活動目標、年間指導計画作成と効率的な活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の時間や朝の打合せ時間を短縮し、業務の効率化を図った。 ・時間外勤務時間は、教員数減に伴う各教員の負担増から、昨年度比+11%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議等の時間短縮を図り、時間外勤務の削減を推進していく。 ・職員相互の互惠関係を意識し、業務の更なる効率化と平準化を推進していく。 ・部活動ガイドラインに沿った部活動運営の遵守を更に推進していく。
コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全意識の高揚 ・飲酒、酒気帯び運転ゼロ ・体罰、パワハラ、セクハラゼロ ・監査、検査等の指摘事項ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事案及び体罰やハラスメントに関する事案はなかった。 ・監査、検査等の指摘事項 0 件 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員相互の声掛けを推進し、更なるコンプライアンスの徹底を図っていく。 ・引き続き適正な会計処理に努め、ケアレスミスを減らす。

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	20	学校名	静岡県立沼津城北高等学校	記載者	高石 達寿
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア 進路希望の実現	総合的受験力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試の成績向上（中間層の向上） ・小論文、面接の対応能力向上 ・志望理由書作成能力の向上 ・進学講習参加者増加と満足度向上 ・進路希望実現者の増加（3年1学期までの進路目標定着 80%以上） 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路目標定着が80%以上の目標達成とのこと。それがその後の進路指導に繋がったのはとても良い。 ・英検受験者の増加などにも成果が出ている。
イ 確かな学力の定着	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間と学習理解度の増加 ・大学入学共通テストの成績向上 ・「学びの基礎診断」のPDCAサイクルに基づいた活用促進と指導への反映 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立て、家庭学習に意欲的に取り組ませられている。 ・英語で行う英語の授業が凄い。 ・コロナ禍での教育環境の維持に更に努めて、リモートでは受け手の学生に格差が生じないようにしてほしい。 ・PDCAサイクルの活用を解説し、模擬試験を含め計画立てから意識を持って取り組む姿勢を構築したことは生徒の成長に大変意義がある。
ウ 人間力の育成	規則正しい生活習慣とマナーの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒らしい身なりや行動の実践 ・全校生徒の自発的挨拶と対応力向上 ・服装頭髪検査時の違反0人を2/3以上 ・進路実現に向けたマナー等の確立 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい挨拶できる生徒でいっぱいになると良い。 ・服装頭髪検査の違反者0人の目標数値をクリアしていることを評価する。 ・規則正しい生活をおくり勉強やスポーツ等に取り組む基本的な姿勢ができています。 ・今後もマナーの向上とコロナにおける心身面の体表管理に配慮が必要だ。